

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。

「はい」、「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		私たちは児童（平均8人弱）に対して、3から4部屋に別れ、7人のスタッフで専門的に療育に当たっている。
	2 職員の配置数は適切であるか	○		出席児童の数に対し、十分な職員数を配置している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		身体訓練は広い空間で行い、学習指導は机と黒板や教材がある空間で行っている。発達障がいの特徴を配慮し、日々の活動は門を入るところから帰りの会まで、図やマークやルーティンで秩序づけられている。滑り止めやぶつかり防止対策などを施し、安全面に配慮している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		開所前と開所後には職員全員で清掃に当たっている。アルコール除菌や手洗いは、活動のたびにに行い、ウイルス対策に心がけている。子どもたちが集中し、安全に活動ができるように、部屋や廊下などに必要で適切なものを配置している。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		日々、開所前に職員全員で当日の療育計画と配慮事項を確認し、療育が終わった後には反省会を開き、子どもたち一人ひとりの課題について話し合い、シュタイナー教育の専門家が助言を与えている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者にアンケートをしたり、必要な場合は事業所内や家庭で相談・指導を行っている。その結果は、職員全員で共有し、業務の改善に役立てている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		アンケートの結果を職員で話し合い、個別支援計画に反映させている。また必要なときは事業所内相談や家庭での相談を行うなど保護者の相談に乗っている。ホームページにも「保護者の声」として代表的な意見を掲載し、具体的な「活動報告」を行っている。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		私たちの活動は、文部科学省の科学研究費と広島大学の研究費を得て行われており、毎年、研究活動の報告を行い、公的な評価を受けている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		私たちは療育方法として、シュタイナー教育とモンテッソーリ教育のメソッドを用いている。そのため、両教育に関する研修に積極的に参加している。
適	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		5や7で記したように、日々の反省やアンケートを個別支援計画に反映させたり、保護者との懇談を通して、個別や全体の教育方法の改善を行っている。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		私たちの療育方法は、シュタイナー教育とモンテッソーリ教育であり、その教育法の記述や見方に沿って、アセスメントを行っている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		支援計画の児童発達支援ガイドラインをふまえ、多方面の支援を行っている。不登校の児童に対しては、学校や教育委員会やカウンセラーと定期的に話し合い、課題を共有し、学校への復帰をサポートしている。また、療育は事業者だけでは達成できない部分があり、家庭の協力のもと進めている（家庭での過ごし方や保護者が児童へ配慮すべき点などを助言）。
適	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		支援計画を職員で共有し、個別の課題に配慮しながら療育に当たっている。